

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市東区長嶺東3丁目3-70番地		
自己評価作成日	令和2年2月5日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中に位置しており、周囲も気軽に散歩できる環境にあります。施設の近くには小学校もあり、児童の登下校時や運動場での活動時に子供たちの声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ご家族に対しても入居者お一人々のホームでの生活をブログにてお伝えしています。職員の元気が大切にながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。また、認知症通所も共用空間で実施しており、在宅から来られるご利用者様との交流や、同法人が行っている保育園の園児達との交流等も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中に平成20年に開設されたホームは、この数年入居者の入れ替わりも無く、オープンからの入居者も104歳・100歳という超高齢化にあり、協力医療機関との密な連携を図り、職員の健康管理や医療ニーズへの徹底は、家族への安心感として生かされ、生活の沿線に看取りがあるとして研修を重ねている。今年度は環境美化への強化や、「何でもノート」により観察力や、新体制としての委員会活動等志向を高くして臨んでいる。家族には毎月の報告書や「ひまわり通信」、ホームページを活用しながらの情報発信が家族との関係性を強化させ、毎日訪問される家族等信頼を得たホームである。ホームの日常は、「笑顔絶えない施設」を基本とした理念にあることがホームページより垣間見られ、超高齢化、重度化の中でも笑いのあるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔の絶えない施設づくりを基本に掲げ、「スマイルライフ」を職員理念に置き、運営理念を中心に日々取り組んでいます。	笑顔の絶えない施設を基本とする理念を毎年確認しているが、笑って過ごせる環境が意外と出来ていないと捉え、現在も「スマイルライフ」を基に職員個々が目標を立て、目標達成に真摯に取り組んでいる。ホームページに理念や、日常生活を開示しており、笑って過ごされる入居者の姿を見ることができるホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設花壇を通じ、施設前を散歩されている方々との交流から、花の手入れ方法指導を受けたり、新しい苗を持って来て頂き一緒に植えたりしています。	管理者及び職員は地域のサロンに出かけながらホームの啓発に努めたり、小学校のジュニアボランティアを受け入れ、発表会へ招待されている。隣接でのカフェに入居者も参加し交流しているが、地域とのふれあいについては課題であると捉えている。	玄関先の草花が訪問者を迎え入れる環境となっている。介護度の高さや104歳や100歳という年齢からも地域へ出かけることは難しい状況にある。今後も隣接するケアハウスの方々との交流やボランティア等との交流への取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティア活動として施設に来られた方又は実習生に対し時間を取り、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度での問題点等を会議の場で検討すると共に、より良い施設運営のアドバイスを受けています。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議は、グループホーム・小規模多機能・住宅型有料ホーム3事業所合同で開催している。資料をもとにした説明や外部評価の目的及び意義が説明され、意見交換が行われている。校区の行事リサーチの場や、地域包括支援センターからはその時々アドバイスや他の事業所の取り組み等が発信されている。防火訓練の見学による気づき等ホーム体制へ反映させている。	回を重ねていくと、形骸化しかねない。家族や他の施設、地域包括支援センター等の参加であるが、3事業所が合同で開催されており、メンバー構成を検討される事で更に多くの意見や気づきが見出せるかと思われる。職員体制に余裕があれば、管理者以外の職員も参加することを検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時常に連絡を行っています。	事故報告書や介護認定更新申請等に出向き、訪問調査時に情報を発信している。地域包括支援センターや他の施設からの入居相談や介護相談員制度を利用し報告書を精査しケアに反映させたり、介護相談員との会議に参加しながら情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待について職員会議内で勉強会を行い、虐待防止や身体拘束に該当する行為の把握と拘束をしないケアについての認識を深めた。	身体拘束廃止委員会で拘束の検証や、ヒヤリハット(安全対策委員会での検討結果を更に検証する体制)事例等を話し合い、独歩による転倒リスクが高い入居者対応として、家族の同意を得てセンサーマットを使用し、コールが重なったときの優先順位等も全員で検討している。また、外部研修に参加し、ホーム内での復講による意識を強化させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止についての認識を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護に関する資料を使い、確認しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来る様にしていると共に、直接希望を言われた場合は、対応できることは即対応することになっています。	家族の訪問時等直接要望等を出され、苦情については苦情記録簿として残し、精査、対策をすることとしているが、申し出は無い。普段から家族との良好な関係づくりに努めており、家族も随時気づいたことは直接申し出られる等フランクに話せる環境にあり、食事介助に毎日訪問される家族もおられる。職員が毎月の行事予定(個人情報観点から個別に予定表を作成)とひまわり通信の送付、及びホームページも情報発信源として活用している。	家族会は無く、新型コロナウイルスが収束すれば、家族との交流の機会を作られることを検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。また、各職員が自由に意見を書き込めるなんでもノートを活用し日々の意見を取り入れる様にしています。	申し送りノートの活用や「何でもノート」を作成し、日常の気付き等を把握する体制としている。毎月の職員会議により、必要な備品の提案や業務内容変更、勤務時間の見直し等を検討している。管理者は、職員のメンタルの維持、健康管理の徹底等とともに音楽を流すことでリラックスしてケアに当たって欲しいとしている。職員がケア中心の日々、特にトイレ介助等が厳しい状況の中で、介護負担軽減を目指し、退職の無い働きのある施設作りに努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間月単位の変形労働制に変えることで、年間の休日が2日増えた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員を中心に定期的な勉強会を行うと共に、安全対策委員会にて、職員から出た日々のヒアリハットの検証を行い、同時にその職員に書面にてアドバイスを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修への参加を行い、他施設職員との交流から、色んな意見を取り入れ、施設運営に活用出来るように対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活背景を知ると共に、傾聴を受容し本人にとって必要不可欠なことを見極め、安心できる関係づくりに努めています。又入居前に認知デイを利用して頂きながら馴染みの関係づくりに努め自然な入居への移行が出来る対応もしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要に応じ、日常生活の様子、健康状態の報告を行い、同時にご家族等からの要望を伺いながら、入居様が安心出来る環境づくりに努めています。意見箱設置。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・主治医と連携を図り、必要としている支援を見極め、本人らしく生活出来る様支援している。必要に応じ、訪問マッサージや医療機関でのリハビリが受けられる様対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本に考え、ご本人が出来る部分等の見極めを行いながら、積極的に自立に向けた対応に努めています。また、出来ない部分へのケアにも一緒に行いながら対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対し、報告・連絡・相談等を行いながら、ご家族に協力できる部分には力になって頂き、利用者様をご家族と共に支えることが出来ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、近隣の知人・友人等の自由な面会又は電話での対応を行い、関係性が継続できる様支援を行っている。また、各居室には、家族の写真や日々日常で使われていた物を使用されています。	家族や知人の訪問、友人の迎えにより自宅への帰省や外食、カットボランティアとして長く訪問される方々、長い職員等馴染みの関係性が継続されている。ホームでの大運動会、豆まきや花火で童心にかえり、観月会としてお月見団子ならぬ饅頭を作る等四季折々の慣習等継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	視聴覚障害のある方や認知症により意思疎通が困難な方もいらっしゃるため、職員が仲介となり、行事やレク等での交流が図れる場を設けています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が施設や病院の場合、情報提供書を作成し、退所後もご家族等から相談があれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から希望や意向は常々尋ね、意向に添える様理念に基づきながら検討・対応しています。	入居者の生活背景をリサーチし、傾聴による聞き取りや全盲や意思疎通の難しい方等もおられ、介護抵抗は嫌なのだろうと推察している。「誕生会をやってもらっていない」等発せられた言葉にあらたに誕生会をやり直し、落ち着きがないときはトイレではないかと誘導している。家族から入居者の声を代言されたり、ホーム側も家族に相談しながら本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活背景を知ると共に、ご本人らしい生活が出来る様、対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンス、記録を通し、情報の共有をしていくと共に、その人に合った対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。又、介護計画のモニタリングは、毎月実施しており、ご家族に相談が必要な内容がある場合は適宜相談し対応をお願いします。	家族の意向などを把握し、毎月カンファレンスを行うとともに認知症スクリーニングテスト(年に2回)及び、短期目標期間毎に見直しを行っている。100歳を過ぎた入居者等超高齢化にあり、家族の思いである少しでも長く楽しく過ごしてもらうための具体的且つ適切なプラン等が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等柔軟に行う様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛けたり、花壇の整備を一緒に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	現在かかりつけ医については、ほとんどの方が協力医による往診であるが、看取りを見据え夜間対応が可能な医療機関を主治医にされる方もおられる。家族からも健康管理への質問や要望もあり、看取り支援を含め、丁寧に応じている。歯科については入居者の希望に応じ、訪問治療や歯茎などの口腔ケアがおこなわれている。バルーン設置等もあり、IN・アウトチェックや尿量・白濁等により異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護職員が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、入院先との情報交換や退院後の調整を行っています。また、入院時のはその都度、サマリーを作成し提出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への支援を見据え、ご家族と相談を行い、関係機関との調整や往診への協力を行っています。	入居時指針をもとに看取りへの取組を説明している。家族もホームでの最終を望まれており、一度同意書は交わしているが、実際、支援が必要になった時点で再確認を行っている。看取りの経験がない職員もいることから、メンタル面にも配慮しながら研修会を行っている。24時間の近況時対応として訪問看護を利用したいとの家族の意向もある。	管理者は看取り支援の実施については、主治医との連携や、職員の心構えなどメンタル面への十分な配慮の必要性を認識している。長年ホームで過ごされている方もおられ、今後も職員との馴染みの関係を大切にしたい支援の継続を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っています。又、防災委員会を設け、年間の訓練を実施しています。また、訓練の際には、ケアハウスからの応援体制を整えています。	火災避難訓練を年2回実施しており、1回目は運営推進委員の参加により実施し、テレビの固定の必要性や誘導時間など貴重な意見やアドバイスを受けている。2回目は夜間想定非常呼集訓練を行っている。災害対策は防災委員会を中心に検討し、夜間想定訓練の実施回数が多かったことで、地震発生時には訓練の効果が表れている。日常の安全点検は、玄関やトイレ、喫煙所などを20時50分に実施している。備蓄は隣接する有料施設の倉庫で確保されている。	備蓄については種類を含めた検討の必要性をあげている。夜間帯の安全管理を含め、今後もあらゆる災害を想定した訓練や対応策について検討されることを期待したい。また、防火管理責任者への受講を促しており、今後の取組が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔されていたお仕事や、ご家族の関係など、その方にあった言葉かけや安心できる声掛けに心がけています。	身体拘束に関する研修会の中でも、尊厳やプライバシーなどについて共有を図っている。広報誌の掲載については、家族の意向に沿って対応している。管理者は職員のメンタル面が、入居者への対応に大きく影響するとして、職員の好む音楽(Jポップなど)を流すなど心を配っている。また、管理者自身が朝の掃除を行う際、夜勤者の状態を察し、負担にならないような声掛けなどを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を確認し対応することに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分や体調、ペースを尊重しながら支援を行っています。(特に、食事や入浴)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂きたいと思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭きとりを一緒にやっています。	業者による調理済みの副食を使用し、ご飯と汁物をホームで作っているが、月1回食事レクレーションの日として、おやつを中心に(チョコバナナ・蒸しパン・ゼリーなど)ホーム内で行っている。行事食では月見饅頭や、節分の海苔を使用せずちらし寿司としたり、おせちは個別のお重で大変喜ばれたようである。入居者が普段の調理に関わる機会は困難になっているが、店の空いている時間に車椅子の方が買い物に同行をしたり、味の評価などできることで食に関わってもらっている。また、検食という形で同じものを摂り、気づいたことは業者へ報告している。	ホームの献立は3食汁物を付けており、喉越しや水分補給にもつながっていると思われる。また、好みの飲み物でも水分摂取に努めており、104歳になられて方もコーヒーを好まれるようである。ベランダでのお茶やおやつの時間なども継続されており、変わらぬ支援に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲みたい物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアをスタッフで共有しており、毎食後には口腔内の清潔に努めています。また、個人の義歯に関し、週2回の洗浄(ポリドント)を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様ごとの排尿チェック表を利用し、定時誘導以外にも、その方のパターンを把握し、状況に応じて誘導と付き添いを行っています。	入居者の表情を見ながらトイレへの誘導を行っており、殆どがリハビリパンツを使用されている。介護度が高くなられた方にも、日中はトイレへ誘導し、夜間はテープ式オムツで対応している。また、夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、清潔に管理している。管理者は入居者が気持ちよくトイレを使用できるよう掃除の徹底と、トイレトーパーも直置きにしないなど、衛生面への対応についても会議の中で伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認を行うとともに、利用者様の状態に応じ、乳製品を取り入れたりしています。運動に関しては、その利用者が出来る内容を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中ではありますが、ご利用者様の意向や状況をふまえ、入浴時間を柔軟に対応しています。	週3回、午前・午後で入浴支援を行っている。脱衣スペースも広いことから、浴室同様、温度管理に努める他、拒否をされる場合は時間を変更して、再誘導を行っている。菖蒲や柚子湯も継続して取り組み季節を味わってもらっている。今年度は職員より新しいシャワーキャリーへの買い替えの要望があり、購入に至っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のによって利用者様の入眠される時間が違うため、その都度利用者様の決定にて入眠を促したり、その日眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解出来る様に工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等、利用者様自身での活動に対し対応しています。又、コミュニケーションの中から、ご利用者様の意向も取り入れながら、楽しみやレクリエーション等の気分転換の時間を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各利用者様の状態に応じて施設周辺を付き添い散歩を行ったり、ベランダでおやつを食べたりし、利用者様の友人の方に協力して頂き外出、外泊等の気分転換への協力をしていただいています。その他、屋外行事実施。	車いすを利用される方や介護度も高くなっており、依然のように近隣の散歩などは困難になり、ベランダでの外気浴が中心になっている。散歩が難しくなっていることは、近隣者との会話など、交流の機会の減少ともなっている。新型の感染症の影響を受け、ここひと月は外出の機会は持たれていないが、直近では初詣や友人との外出や外泊などもある。	桜の時期には公共の公園(テクノパーク)や併設施設の敷地にある桜の下で、散歩を兼ねた花見も考えている。実現が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、園外行事等の際にご利用者様の買いたい物を選んで頂き、スタッフが買い物の対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来る様、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子ども達の声が聞こえる環境です。	建物の玄関には来訪者も楽しみとなるよう、季節の花のプランターや観葉植物、置物を配置している。また、小まめな掃除に努めることを会議で共有している。1階の共有ホールは、同法人保育園児との七夕会やボランティア訪問など交流の場としても活用され、活動の様子や日常の光景も写真にし掲示されている。2階のホーム内は、季節に応じて壁面や飾り物を配置しており、訪問当日は手作りのお雛様が置かれていた。また、テーブルやソファなども入居者の身体状況に応じ配置を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファーや椅子を設置し、ベランダにはベンチを置いて好きな時に好きな場所を利用出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファー、タンス、写真等自宅にあったなじみの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	自宅にいるような安心できる環境となるよう、使用されていた馴染みの家具やソファ、必要な品の持ち込みを依頼している。衣類の持ち帰りをされる方もおられるが、環境が変わらないことも大切であり、持ち物の持ち帰りはなどは基本行わないこととしている。可能な寝具は天候の良い日にベランダで日光干し努め、失禁などで傷みが出た場合は、気持ちの良い安眠や室内の臭気にも対応して買い替えを依頼している。	管理者は安全面や落ち着いた環境となるよう整理整頓や、排泄用品も出しっぱなしにしないなど、プライバシーに配慮した支援について、指導を行っている。周知徹底されていくことを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、すべてバリアフリーになっています。		